

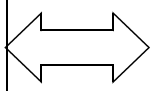


6 IB 認定校における TOK の具体的な単元の指導事例

※掲載している指導事例は、TOK の趣旨を踏まえ、各学校の創意工夫によって実施しているものであり、これら事例をそのまま実施するのではなく、これらの事例も参考に、地域や学校、生徒の実態に応じた創意工夫により特色ある授業を行うことが求められます。

加藤学園暁秀高等学校

加藤学園暁秀高等学校では、IBO が定めた Knowledge Issue の理解、学習者の視点、Knowledge Issue の分析、アイデアの構成といった4つの観点からなる評価規準に修正を加えた独自の修正評価規準(資料2-1参照)を設けている。この独自の評価規準により、各単元で生徒に課されるエッセイ課題の評価を行うとともに、日常的な学習活動に対する形成的評価を行っている。

TOK指導案 「TOK」概論に関する事例

1 単元名 「知るための方法」概論
2 学年 高校2年
3 各概念の統合
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"><p>「TOK」のどのような部分を学習するのか</p><p>何が自分たちの知識を形作ったり、影響を与えたりするのか。</p></div><div style="text-align: center; margin: 0 10px;"></div><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"><p>生徒の理解が期待される概念</p><p>知識を定義し、知識をどのように獲得するのかを分析することにより、Knowledge Issueが生じる。</p></div></div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-top: 20px;"><div style="text-align: center; margin-right: 20px;"></div><div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 60%; text-align: center;"><p>学習活動における重視すべき視点</p><ul style="list-style-type: none">・「知」とは何か。どのように知ることができるのか。・知識はどのように定義することができるか。・「学習者」にはそれぞれどのような違いがあるか。また、この違いが知識にどのように影響しているのか。・知識を定義し、表現することによりどのような Knowledge Issue が生じるのか。</div><div style="text-align: center; margin-left: 20px;"></div></div>
4 単元の目標(内容と技能)
生徒には次のことが期待される： <ul style="list-style-type: none">● 4つの「知るための方法」と6つの「知識の領域」を挙げ、定義する。● 様々な情報源の強みと問題点を評価する。
5 使用する教材等
<ul style="list-style-type: none">① Richard van de Lagemaat(2005)「 Theory of Knowledge for the IB Diploma 」(Cambridge University Press)② Peter Weir(1998)「 The Truman Show 」③ Theory of Knowledge Overview (資料2－2参照)④ Knower's Worksheet (資料2－3参照)⑤ The Truman Show Viewing Sheet (資料2－4参照)

6 単元の指導過程

	学習活動	指導上の留意点及び評価
<p>第1時限目 TOK の概要</p>	<p>(1) パワーポイント「Theory Of Knowledge Overview」(資料2-2参照)を見せ、教員がそれについて説明する。</p> <p>(2) 「Knower's Worksheet」(資料2-3参照)を配布する。生徒は、トピックを選択し、選択したトピックについて自分たちが知っていることを該当する欄に5つ記入する。</p> <p>(3) 知っていることとして選択した事柄について、自分の知識が自らの「学習者」としての独自性によってどのように形作られるかについて2人1組で話し合う。</p> <p>(4) 復習。生徒は、「Theory Of Knowledge Overview」で学習した4つの「知るための方法」と6つの「知識の領域」を2人1組で確認する。</p>	<p><指導上の留意点></p> <p>(1) 「学習者(Knowers)」</p> <p>(2) 「知識の領域(Areas of Knowledge)」</p> <p>(3) 「知るための方法(Ways of Knowing)」</p> <p>(4) 「Knowledge Issue」</p> <p>について生徒の理解を求める。</p>
<p>第2時限目 正当化された真なる信念としての知識</p>	<p>(1) 生徒は2人1組になり、知識の定義を記述する。その後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 教員は、プラトンの「知識とは、正当化された真なる信念である (Knowledge is justified true belief)。」という定義を黒板に書く。</p> <p>(3) 真実でないことを「知る」ことは不可能であるということについて話し合う。(時間があれば、生徒は、確信していたことが間違っていたと分かったときのことをお互いに述べ合う。)</p> <p>例) サンタの存在について もしサンタが実在しないなら、サンタが実在するということを知っているということはいできない。</p> <p>(4) リーディング: 「真実」について書かれた文章※1を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめる。</p> <p>(参考) 「真実」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識」と「信念」を区別するものとして、「真実」の存在がある。何かを「知っている」と言いたいなら、それは真実でなければならず、単に信じているだけでは間違っているということもあり得るので「知っている」ことにはならない。 <p>例) フランスの首都はローマだ。 地球は平らである。 豚は翼を持っている。</p>	<p><指導上の留意点></p> <p>「正当化された真なる信念」など知識の定義について生徒の理解を求める。</p> <p><評価></p> <p>形成的評価</p> <p>知識に関する今までの2回の授業を通して、知識について新たな視点から考えるようになったか、また、それはなぜか、あるいは、なぜならなかったのかについて、ノートにまとめる。</p> <p>※1教材①24ページ「Truth」参照</p>

・誰もが信じているということと「真実」とは関係がない。実際に、みんなが真実だと思っていたことでも間違いだと分かったことはこれまでもある。

例) 中世において、人々は「地球を周回する7つの惑星(太陽、月、水星、金星、火星、土星、木星)がある」ことを「知っている」と思っていた。

・私たちが「知っている」と思っていることが本当に真実なのかということはどうやって確信できるのか(将来、10番目の惑星が発見されないとも限らない)。私たちが「知っている」ということについて、「合理的な疑いの余地がない」ということがポイントとなる。

第3時限目

知識の必須条件としての正当化と信念

(1) 前回の授業の復習。2人1組になって、次の質問に対する答えを話し合う。

A) プラトンの知識の定義は何だったか。

B) プラトンは知識の定義を通じて何を言おうとしているのか。

(2) 信じていないことを知ることはできるのか、2人1組で話し合った後、クラスで発表する。

(3) リーディング: 「信念」について書かれた文章※2を2人1組で読み、各ペアは質問やコメントをまとめる。

(参考) 「信念」の概要

・何かを「知っている」というときには、それが真実であるだけでなく、あなたがそれを真実だと「信じて」いなければならない。つまり、真実は知識の客観的要件であり、信念は知識の主観的要件なのである。

例) ・百科事典は、「フランスの首都はパリだ」ということを「知っている」とは言わない。

・計算機は、 $2 + 2 = 4$ ということ「知っている」とは言わない。

・真実と信念は完全に分けて考えられるものではなく、その確実性に応じた連続した概念であると捉えた方が分かりやすい。

(4) 幽霊やUFOが存在することを信じている人や、人生や人格を支配するものとして、占星術・星占いや数霊術、血液型を信じている人がいる。このようなものを信じるか。このようなものを信じる人々は、これらが真実であるということを知っていると言えるのだろうか

<指導上の留意点>

知識の必須条件としての正当化と信念について生徒の理解を求める。

<評価>

形成的評価

自分が真実ではないと確信をもっていることを信じている学習者(個人やグループ)について文章を書く。なぜ間違っていると思うのか。

※2教材①26ページ「Belief」参照

か。自分は信じていないが多くの人が信じているようなことを1つ挙げ、なぜ信じていないのか、信じている人々は自分の信念が真実であるということを「知っている」のか、について、生徒は2人1組で話し合う。

- (5) リーディング：「正当化」について書かれた文章※3を2人1組で読み、各ペアは質問やコメントをまとめる。

(参考)「正当化」の概要

- ・「真なる信念が知識の十分条件であり、あなたが信じていてその信念が真実であればそれを知っていると云える」と思っているかもしれないが、それで十分とは言えない。あなたの信念が「正しい方法で」正当化されることも必要なのである。

例) 4つの知るための方法(言語、知覚、根拠、感情) vs テレパシー、靈感

*ポイントは「信頼性」。4つの知るための方法は信頼性が高いが、それと比較してテレパシーなどは信頼性が低い。

- ・何かを知っていると言うときには、ある意味で、そのことが真実であるということに責任を持つということになる。

例) 亀裂が入った橋を渡るとき「あなたの体重でも大丈夫だ(と僕には分かる)よ」と言うには、橋を渡ったときに私の身に起こることについて責任を持っていなければならない。

※3 教材① 26～28ページ
「Justification」参照

第4時限目
文化的伝統

- (1) 2人1組になり、日本人が独特の視点で世界を見ていると思う例を5つ挙げる。(例として、家に入るときに靴を脱ぐなど。)その後、クラスで発表する。

- (2) 上記の発表から5つの例を選ぶ。生徒は、ペア活動に戻り、選択された5つの例が、日本人が「世界を知る」手段と他の文化の人々が世界を知る手段との違いをどのように表しているのかについて話し合う。

例) ①日本人は家に入るときに靴を脱ぐが、これは日本人が、他の文化の人々よりも外の世界を汚いと見ているということなのか。

②日本人は議論するとき「敬語」を使う。これは、他の文化では見られない。これは、日本人が他の文化の人々よりも社会

<指導上の留意点>

文化的伝統には、情報源としての利点と問題点があるということについて生徒の理解を求める。

<評価>

形成的評価

下記の質問について2段落構成で文章を書く。

文化的伝統を情報源として用いることの利点と問題点は何か。主な利点と主な問題点を1つずつ挙げ、記述する。

を階層組織的に見ているということなのか。

③日本人は他の文化の人々よりも感情を表に出さないと言われている。このことは、日本人が感情を表に出すことを好ましくないと考えているということなのか。

(3) リーディング：「文化的伝統」について書かれた文章※4を2人1組で読み、各ペアは、質問やコメントをまとめる。

(参考)「文化的伝統」の概要

・どのような文化で育ったかということが、私たちの物の見方に大きな影響を与える。

例) 1日を10等分する方が合理的であると思われる一方で、12時間×2回に分けることに慣れていて、それが正しいと感じるという理由だけでほとんどの人々が10進法化することに反対のようである。

・他の文化に敬意を払い、そこから学ぶ姿勢も大切である。同時に、伝統は変わっていき、時とともに発展するという心にも留めておかなければならない。伝統的な考え方に敬意を払いつつ、それらに疑問を持つ姿勢も忘れてはならない。

例) 政治から女性を排除してきた歴史

(4) 文化的伝統を情報源として用いることの利点と問題点は何か。2人1組で話し合った後、クラスで発表する。

※4教材①31ページ「Cultural tradition」参照

第5時限目
情報源としての教育

(1) 2人1組になり、良い生徒の資質とは何かを話し合った後、クラスで発表する。

(2) 2人1組で、良い教員の資質とは何かを話し合った後、クラスで発表する。

(3) 教育はどのような知識をもたらすべきか。自分たちの教育は、自分たちが必要としている知識をもたらしているのか。教育を通して知識を獲得することに欠点はあるのか。

これらについて、2人1組で話し合う。

(4) リーディング：「学校」について書かれた文章※5を2人1組で読み、各ペアは、質問やコメントをまとめる。

(参考)「学校」の概要

・学校は世代から世代への知識の伝達において、重要な役割を果たしている。

・学校ですべてを教えることは不可能で、学校のカリキュラムにおいては、学習する内容を

<指導上の留意点>

教育には、情報源としての利点と問題点があるということについて生徒の理解を求める。

<評価>

形成的評価

次の質問について2段落構成で文章を書く。

教育（学校）を情報源とすることの利点と問題点は何か。主な利点と主な問題点を1つずつ挙げ、記述する。

※5教材①32ページ「School」参照

	<p>選択し、限られた項目を扱うことになる。</p> <p>(5) 2人1組で、自分たちの学校を情報源とすることの利点と問題点を話し合った後、クラスで発表する。</p>	
<p>第6時限目 情報源としてのインターネット</p>	<p>(1) 対照的なウェブサイトを生徒に提示する。 「地球は空洞だ」など奇抜な意見と思えるものや、学校で教材としてよく使われる雑誌の記事のような情報源を含める。</p> <p>(2) 次の質問について2人1組で話し合った後、クラスで発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ特定のインターネットサイトを信用し、他のサイトは信用できないのか。 ・これらの判断をするとき、どのような思い込みがあるのか。 ・インターネットを情報源とする際、気を付けなければならない危険はあるのか。 <p>(3) リーディング：「インターネット」について書かれた文章※6を2人1組で読み、各ペアは、質問やコメントをまとめる。</p> <p>(参考)「インターネット」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの利点は、スピードとアクセスのしやすさであり、短所は質の面での管理の危うさである。頭ではインターネットで情報を得ることの危うさを分かっている、実際は信じてしまうことがある。 	<p><指導上の留意点> インターネットには、情報源としての利点と問題点があるということについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価> 形成的評価 次の質問に対して2段落構成で文章を書く。 インターネットを情報源とすることの利点と問題点は何か。主な利点と主な問題点を1つずつ挙げ、記述する。</p> <p>※6教材①32、33ページ「Internet」参照</p>
<p>第7～9時限目 知るための方法</p>	<p>(1) 2人1組で、4つの「知るための方法」とは何かについて復習。</p> <p>(2) 自動販売機から未開封の缶コーヒーを持ってくる。ペアで、それが実際に缶コーヒーであるということを示す証拠がどの程度あるのか意見を出し合う。(特に知覚や根拠、言語が、これが実際に缶コーヒーであると知る手段であることに気付くよう導くことが望ましい。)</p> <p>(3) 映画「トゥルーマンショー」の有名なセリフ、「我々は、与えられた世界の現実を鵜呑みにしてしまうものだ (We accept the reality of the world with which we are presented)。」を黒板に書く。生徒は、「これが何を意味するのか。」「これは真実か。」について話し合う。</p> <p>(4) 主人公が偽りの現実を与えられている映画を見ることを生徒に伝える。</p> <p>(参考)「トゥルーマンショー」のポイント 映画の中で、人々は、4つの「知るための方法」を用い主人公を欺く。しかし、主人</p>	<p><指導上の留意点> 「知るための方法」には、知識を獲得する上で利点と問題点があるということについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価> 総括的評価 映画鑑賞後、トゥルーマンが世界についての知識を探求する上で、各「知るための方法」をどのように用いていたかについてエッセイを書く。</p>

公は、4つの「知るための方法」を用いて自分の世界の本当の現実に対する知識を獲得していく。

(5) 「**The Truman Show Viewing Sheet**」(資料2-4参照)を配布する。生徒は、映画の中で4つの「知るための方法」がどのように用いられ、また、誤用されているかをメモする。

(6) 映画『トウルーマンショー』を鑑賞する。
(2時間分)

(7) 映画鑑賞後、トウルーマンが世界についての知識を探求する上で、4つの「知るための方法」をどのように用いていたかについてエッセイを書く。

7 評価規準(付けたい力)

(1) 総括的評価

生徒は、次のトピックについて1,000ワードのエッセイを書く。

「トウルーマンショー」の主人公は、自分の世界について真実を見いだすために4つの「知るための方法」をどのように用いていたのか。また、これらの「知るための方法」は、トウルーマンが真実を見いだすのを妨げるためにどのように用いられていたのか。

※加藤学園暁秀高等学校においては、TOKのエッセイに対する修正評価規準(資料2-1参照)を用いて評価する。

(2) 形成的評価

各授業において(あるいは宿題として)、生徒のクリティカル・シンキングを育むために、以下のようなエッセイを書いたり、話し合いをしたりする活動を評価する。

- 知識に関する今までの2回の授業を通して、知識について新たな視点から考えるようになったか。また、それはなぜか、あるいは、なぜならなかったのか。
- 自分が真実ではないと確信をもっていることを信じている学習者(個人やグループ)について文章を書く。なぜ間違っていると思うのか。
- 下記の質問についてそれぞれ2段落構成で文章を書く。
 - ・文化的伝統を情報源として用いることの利点と問題点は何か。主な利点と主な問題点を1つずつ挙げ、記述する。
 - ・教育(学校)を情報源とするものの利点と問題点は何か。主な利点と主な問題点を1つずつ挙げ、記述する。
 - ・インターネットを情報源とするものの利点と問題点は何か。主な利点と主な問題点を1つずつ挙げ、記述する。

TOK指導案 「知るための方法」に関する事例

1 単元名 「知るための方法」としての感情

2 学年 高校2年

3 各概念の統合

「TOK」のどのような部分を学習するのか

様々な「知識の領域」において、感情を「知るための方法」として用いることにより、どのような Knowledge Issue が生じるのか。

生徒の理解が期待される概念

感情は、知識を得る上で様々な役割を担っているが、これらの役割を批判的に分析・評価することができる。

学習活動における重視すべき視点

- ・知識の獲得において、感情はどのような役割を担っているのか。
- ・「知るための方法」としての感情の特性は何か。
- ・感情は、「知るための方法」としてどのような強みと限界があるのか。
- ・他の「知るための方法」とどのように比較することができるのか。

4 単元の目標

生徒には次のことが期待される：

- 知識を獲得する際、感情がどのような役割を担うのか述べる。
- 感情は、どの程度生物学的、あるいは、「生まれつき備わっている」ものなのか、またそれゆえに、どの程度人類に普遍的であるのかという疑問について議論する。
- 感情は、道徳的判断や政治的判断の形成において、どのような役割を担っているのか述べる。
- 感情は理性に比べ、「知るための方法」としてあまり役に立たないと思われることがあるのかどうかについて述べる。また、このように思われることが起こりうる理由について熟考する。
- Knowledge Claim の強みと問題点を判断する際には、感情を無視すべきか、あるいは反対に、特に注意を払うべきか話し合う。

5 使用する教材等

- ① Richard van de Lagemaat(2005)「 Theory of Knowledge for the IB Diploma 」(Cambridge University Press)
- ② Emotion Read and Run list. (資料2－5参照)
- ③ Emotion Wall Walk list. (資料2－6参照)
- ④ The evolution of the shrug : Darwin's Principle of Antithesis (映像資料)
- ⑤ Evolution, emotion and reasons (映像資料)

6 単元の指導過程

	学習活動	指導上の留意点及び評価
<p>第1時限目</p> <p>「知るための方法」としての感情について</p>	<p>(1) 「Emotion Read and Run」(資料2-5参照)</p> <p>教室内の各所に資料2-5にある文章をそれぞれ1つずつ書いた紙を掲示する。2人1組になり、ペアのうち1人がその紙のあるところに走って行き、文章を読み、記憶する。そして、机で座って待っているもう1人に伝える。伝えられた人は、その文章を記述する。最初に20個の文章をすべて正しく書き上げたペアが勝ちとする。</p> <p>(2) 各ペアは、「Emotion Read and Run」の中から、自分たちが同意でき、興味深いと感じた文章を3つ選択し、それらの具体例を考え、それらをクラスで発表する。</p> <p>(3) 「Emotions Wall Walk」(資料2-6参照)</p> <p>資料2-6にあるそれぞれの質問を上端に書いた紙を、教室内の壁に掲示する。生徒は、ペアで教室内をめぐり、書かれている質問について話し合う。質問について話したら、その用紙にコメントを記入し、次に進む。この過程を繰り返す。</p> <p>(4) リーディング：感情に関する「導入」の文章※1を2人1組で読み、各ペアは、質問やコメントをまとめる。</p> <p>(参考)「導入」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感情」は知識をもたらすものというより知識を得る妨げになるというのが従来の考え方であるが、TOKにおいては4つの「知るための方法」の1つとして取り扱われている。 ・大事な判断が迫られるときには、感覚(フィーリング)も重要な役割を果たす。 	<p><指導上の留意点></p> <p>感情は、知識の獲得において様々な役割を担っていることについて、生徒の理解を求める。</p> <p>※1教材①146ページ「Emotions: Introduction」参照</p>
<p>第2時限目</p> <p>知識獲得における感情の役割</p>	<p>(1) 2人1組になり、次のことについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>「友達が、飼っていた子犬が死んでしまったて悲しいと言っているときに、自分に感情がなかったとしたら、その状況を十分に理解することができるか。」</p> <p>「友達が大切な試験で100点を取ったと言ったとき、自分に感情がなかったとしたら、その状況を十分に理解することはできるのか。」</p> <p>(2) 「アラブの春」などのような最近の出来事に</p>	<p><指導上の留意点></p> <p>感情は知識を獲得する上で必要であると言われていることについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価></p> <p>形成的評価</p> <p>生徒は、自らの感情が「知る」ということを理解する手助けとなった状況や出来事を2つ挙げ、その2つの状況や出来事において感情がどの</p>

	<p>関するビデオや記事を紹介する。2人1組になり、このような出来事を理解するために、自分たちの感情がどれほど重要かを話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(3) 2人1組になり、知識を獲得する際、感情は何らかの役割を担っているのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(4) リーディング：「知識をもたらすものとしての感情」について書かれた文章※2を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)「知識をもたらすものとしての感情」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 感情がなければ意味のある人間生活を送るのは難しい。 感情は選択肢を狭めるという点で物事を合理的に判断するのに役に立つという見方もある。 	<p>ように「知る」ということを理解する手助けになったのかについて文章を書く。</p> <p>※2教材①155ページ「Emotions as a source of knowledge」参照</p>
<p>第3時限目 知識獲得における感情の限界と弱み</p>	<p>(1) 2人1組になり、自分の感情のせいで、今までに悪い判断を下してしまったことあるのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 2人1組になり、なぜ感情は、知識を制限してしまうことがあるのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(3) リーディング：「知識を獲得する上で妨げとなる感情」について書かれた文章※3を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)「知識を獲得する上で妨げとなる感情」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 感情が強いと他の3つの「知るための方法」(知覚、根拠、言語)をゆがめることがある。 <p>例) 恋をすると周りが見えなくなる。</p>	<p><指導上の留意点> 感情には限界や問題点がたくさんあると言われていることについて、生徒の理解を求める。</p> <p>※3教材①151～154ページ「Emotions as an obstacle to knowledge」参照</p>
<p>第4時限目 感情は、「生まれつき備わっている」ものなのか</p>	<p>(1) 2人1組になり、次のことを話し合う。</p> <p>「自分が怒ったとき、身体的にどのようなことが起こるのか。」「悲しいときはどうか。」「おびえたときはどうか。」「自分の体に起きるこのような症状を防ぐことはできるのか。」</p> <p>(2) スティーブン・ピンカーの「The evolution of the shrug: Darwin's Principle of Antithesis」のビデオを視聴する。</p> <p>(参考) ビデオの概要</p> <p>「肩をすくめるジェスチャーの進化」についての映像。両肩を上げ、手のひらを上に向けて両手を広げ、不快・疑い・絶望・無関心</p>	<p><指導上の留意点> 感情は生まれつき備わっているという主張があることについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価> 形成的評価 感情が自分たちに「生まれつき備わっている」ものであるという考え方について、自分の言葉を使って文章にまとめる。また、この考え方を受け入れることの意味についても最</p>

	<p>・当惑・不賛成など様々な感情を表すことができる。</p> <p>(3) 2人1組になり、上記のビデオについて、感情が「生まれつき備わっている」ものなのかどうか話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(4) リーディング:「感情の性質」について書かれた文章※4を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)「感情の性質」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情は、感覚(フィーリング)、情熱、気分などを含む、幅広い意味で使われている。 ・感情には、様々な内面の感情と目に見えて行動に現れる感情とがある。 	<p>低1つ例を挙げ、詳述する。</p> <p>※4 教材① 146～151 ページ 「The nature of the emotions」参照</p>
<p>第5時限目 感情と判断</p>	<p>(1) 2人1組になり、次のことを話し合う。 「自分は政治や道徳に関してどのような見解を持っているのか。これらの見解を持つ際、感情は何らかの役割を担っているのか。良い判断には感情が必要なのか。」</p> <p>(2) イェール大学ポール・ブルーム博士の心理学入門の講義ビデオ「Evolution, emotion and reasons」の最初の20分を視聴する。その後、2人1組でビデオについて話し合う。各ペアは、質問やコメントをまとめ、クラスで発表する。</p> <p>(3) リーディング:「理性と感情の関係」について書かれた文章※5を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)「理性と感情の関係」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理性と感情は、全く別のものだと思いがちだが、実際は密接に関係しており、明確な区別をするのは難しい。理性的なものから感情的なものへと変化する精神的な活動の連続体と捉えることができるのではないか。 	<p><指導上の留意点> 感情は、物事を判断する際に一定の役割を担っているということについて生徒の理解を求める。</p> <p>※5 教材① 156～157 ページ 「The relation between reason and emotion」参照</p>
<p>第6時限目 他の「知るための方法」と比較したときの感情</p>	<p>(1) 2人1組になり、「感情のほかに、どのような『知るための方法』があるか。」を復習する。</p> <p>(2) 2人1組になり、他の「知るための方法」が、感情を介さずに知識をもたらすような状況はあるのかということについて考え、クラスで発表する。</p> <p>例) $1 + 1 = 2$ という知識を我々にもたらすのは、根拠だけだと考えてはいないだろうか。また、$1 + 1 = 2$ ということを知るようになるのに、感情は何の役割も果たさないと考えてはいないだろうか。 「空は青い」ということは知覚と言語だ</p>	<p><指導上の留意点> 感情は、他の「知るための方法」と比較対照することができるということについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価> 形成的評価 生徒は、最近のニュースに関する記事について、その出来事の描写において感情がどの程度の役割を担っているのか、他の「知るための方法」と比べながら記述する。</p>

けで分かることであり、感情は全く必要ないと考えてはいないか。

(3) 2人1組になり、感情が、他のすべての「知るための方法」とは無関係な知識をもたらすような状況はあるのかということについて考え、クラスで発表する。

(4) 2人1組になり、主に、

ア) 感情と知覚

イ) 感情と言語

ウ) 感情と根拠

が一緒にもたらす知識の具体例を挙げ、クラスで発表する。

例)

ア) 父親が部屋に入ると、幼い息子が喜んでいるのが分かった。息子は笑顔だということは見れば分かるし、自分がどんな時に笑うかという自らの感情に対する知識に基づき、息子は喜んでいると分かるのだ。この知識は、知覚と感情に基づくものだと考えられる(ただし、ここでは根拠も密かに大きな役割を果たしているかもしれない)。

イ) 子どもが、「保育園のもも先生が好き」と言っているとする。彼がその先生のことを好きだということを私が理解できるのは、言語と感情があるからである(もし好きという感情がどのようなものであるかわからなければ、その子どもの言っていることは理解できないだろう)。

ウ) 時速200キロで車を飛ばすのは悪いことだという知識の大半は、根拠に基づくものである(事故を起こしたり、逮捕されたりするのは、自分も周囲も悲しませることになるというように、感情に基づく面もある)。

(5) 2人1組になり、知識を獲得する上で、感情は、根拠に比べて信用度が低いと考えられているか、考えられるとすれば、なぜかについて話し合った後、クラスで発表する。

第7時限目

様々な「知識の領域」における感情の役割

(1) 2人1組になり、生徒は、下記の6つの「知識の領域」において、感情はどの程度重要なのかについて話し合った後、クラスで発表する。

ア) 数学

イ) 歴史

ウ) 芸術

<指導上の留意点>

感情は、様々な「知識の領域」における知識源として多様な役割を担うことについて生徒の理解を求める。

- エ) 自然科学
- オ) ヒューマンサイエンス
- カ) 倫理

(2) 各ペアは、それぞれの領域において知識を獲得する際、感情が担う役割の割合に応じて6つの「知識の領域」を順序付ける。

(3) リーディング：「教科の学習で使われる直感」について書かれた文章※6を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。

(参考) 「教科の学習で使われる直感」の概要

- ・「知識の領域」にある Knowledge Claim が正しいと言うために直感を用いることがあるが、直感は一瞬の気付きで取り扱わなければならない。数学や歴史などの教科の学習で、知らないことに対して直感を使うと混乱や間違いを招くことになるので、直感を修正することが必要である。

※6 教材① 160～162 ページ
「Subject-specific intuitions」参照

第8時限目

まとめ

生徒をいくつかのグループに分け、ある1つの「知識の領域」の中で知識を獲得するとき、若しくはある Knowledge Claim の強みと問題点を判断するとき（もしくは両方をするとき）の感情の利点や限界を説明する短いロールプレイを準備する。それをクラスで発表し、発表後、自分たちが、ロールプレイの中で「知るための方法」としての感情について何を伝えたかったのかを説明する。

例) 次に挙げる Knowledge Claim を判断する場合を考えてみる。

- ア) $7 \times 7 = 49$
- イ) 子どもを叩くのはよくない。
- ウ) サッカーはラグビーよりおもしろい。
- エ) 物質は、原子と分子でできている。
- オ) 女性より男性の方が運転がうまい。

これらの Knowledge Claim の強みと問題点を考えると、感情はあまり重要ではないと考えられるもの（アやエ）もあれば、逆に感情が重要な役割を果たしていると考えられるもの（イ、ウ、オ）もある。これらの Knowledge Claim は、自分や他の人たちの感情に注意を払わなければきちんと評価することはできない。

<指導上の留意点>

様々な「知識の領域」を横断して、「知るための方法」としての感情の利点と限界を再検討する。

7 評価基準(付けたい力)

(1)総括的評価

「知るための方法」の1つとして用いられる感情の利点と限界を、様々な「知識の領域」を横断して他の「知るための方法」と比較する1,000ワード程度のエッセイを課す。

※加藤学園暁秀高等学校においては、TOKのエッセイ修正評価規準(資料2-1参照)を用いて評価する。

(2)形成的評価

各授業において(あるいは宿題として)、生徒のクリティカル・シンキングを育むために、以下のようなエッセイを書いたり、話し合いをしたりする活動を評価する。

- 生徒は、自らの感情が「知る」ということを理解する手助けとなった状況や出来事を2つ挙げ、その2つの状況や出来事において感情がどのように「知る」ということを理解する手助けになったのかについて文章を書く。
- 感情が自分たちに「生まれつき備わっている」ものであるという考え方について、自分の言葉を使って文章にまとめる。また、この考え方を受け入れることの意味についても最低1つ例を挙げ、詳述する。
- 生徒は、最近のニュースに関する記事について、その出来事の描写において感情がどの程度の役割を担っているのか、他の「知るための方法」と比べながら記述する。

TOK指導案 「知るための方法」に関する事例

<p>1 単元名 「知るための方法」としての知覚</p>
<p>2 学年 高校2年</p>
<p>3 各概念の統合</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>「TOK」のどのような部分を学習するのか</p> <p>「知覚」により私たちは正しい情報を得ることができるのだろうか。</p> </div> <div style="text-align: center; font-size: 2em;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>生徒の理解が期待される概念</p> <p>「知覚」は我々に知識を与えてくれるものであるが、限界がある。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center; font-size: 2em;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%; margin: 0 20px;"> <p style="text-align: center;">学習活動における重視すべき視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知るための方法」としての「知覚」の利点をどのようにして理解することができるか。 ・「知覚」にはどのような限界があるのだろうか。 </div> <div style="text-align: center; font-size: 2em;">⇔</div> </div>
<p>4 単元の目標</p>
<p>生徒には次のことが期待される：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知識獲得の情報源としての「知覚」の利点や限界を説明できるようになる。 ● 私たちが目にしているものを、どのようにして誤って解釈してしまう可能性があるかについて説明できるようになる。 ● 私たちがある物事に気付かないことがどのように起こるのかについて説明できるようになる。 ● すでに認識したことについて、どのようにして、そのことを誤って覚えていたり忘れていたりするかについて説明できるようになる。 ● 「知覚」に関して、誤解や見落とし、記憶違いが、科学や歴史の発見にどのように影響を及ぼすかについて説明できるようになる。
<p>5 使用する教材等</p>
<p>① Richard van de Lagemaat(2005)「 Theory of Knowledge for the IB Diploma 」(Cambridge University Press)</p> <p>※ この指導案の概念の多くはこの教材によるものである。特に、この指導案の6時限目の「現実の本質」は、複雑な内容を含んでおり、大部分をこの教材を元にして作成している。</p> <p>② Noticing People Photos (資料2－7参照)</p> <p>③ Noticing People Worksheet (資料2－8参照)</p>

6 単元の指導過程

	学習活動	指導上の留意点及び評価
<p>第1時限目 導入：知覚の使用</p>	<p>(1) 生徒は2人1組になり、五感それぞれを通して知ることができることを1つずつ述べ合う。 例) 触ってみると机がすべすべしていることが分かる。／バッグが閉まっていることは見れば分かる。</p> <p>(2) 2人1組になり、日常生活において得られる知識を踏まえて、五感を役に立つ順に並べる。そのような順位にした理由も含めてクラス全体で発表する。</p> <p>(3) 科学的知識を得る上で(例えば科学の実験で)、五感はどのような役割を果たしているかということについて、2人1組で話し合い、クラス全体で発表する。</p> <p>(4) 歴史上の出来事を知る上で(例えば歴史学者によるある出来事に関する報告)、五感はどのような役割を果たしているかということについて2人1組で話し合い、クラス全体で発表する。</p> <p>(5) 知識に関する学習の導入として書かれた文章※1を読み、この導入ポイントを3文でまとめる。</p> <p>(参考)「導入」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚とは五感を通じて物事を認識することであり、私たち自身と外界をつなぐものである。知覚は、科学から歴史、芸術に至るまで、あらゆる知識の領域において鍵となる役割を果たしている。 ・現実主義によると、知覚によって認識される色や音やにおいなどは、実際にそこに存在するものであり、それに対して何か影響を与えるものではなく、比較的現実と直結するものと考えられているが、知覚は、実際にそこに存在するものだけではなく、器官の機能や心の構造の影響も受け、物事を認識する際にもっと積極的な役割を果たしている。 	<p><評価> 形成的評価</p> <p>2段落構成で文章をまとめる。 1段落は歴史、もう1段落は科学に関して、知識を得る上で知覚がいかに重要であるかについて述べる。</p> <p>※1教材①86ページ「Introduction」参照</p>
<p>第2時限目 知覚の誤認</p>	<p>(1) 生徒は2人1組になり、何かに気付いたときのこと、あるいは気付いたことが間違っていたときのことについて話し合う。また、何かを聞いたり、見たり、味わったり、臭ったり、感じたりしたのに、違うものだったとい</p>	<p><指導上の留意点></p> <p>教員は生徒の理解の手助けとなるように具体例を示し、五感を通して認識したことによって生じる誤認について生徒の理解を求める。</p>

うことはなかったかを考える。

例)

- ・誰かが「デイク、大丈夫か。」と叫ぶのが「聞こえた」ので、「大丈夫だよ」と叫び返したら、恥ずかしいことに、知らない人がガールフレンドに「ベイク、大丈夫か。」と尋ねていたものだった。
- ・長期休暇を終えた友人が職場に戻ってくるようになっていた。私は友人が到着したのを「見た」ので走って会いに向かった。ところが気まずいことに、挨拶しようとした相手は、会ったこともない別人だった。
- ・台所のゴキブリに関する不快な例。私は台所でよくゴキブリの影を見て怯えている。台所のいすに座る自分の影を見て飛び上がることもある。

(2) お互いに例を挙げた後、次のような点について考え、五感を通して誤った解釈をしてしまったことから起こる、もっと深刻な問題について話し合う。

- ・五感を通して認識したことについて、なぜ人は勘違いをしてしまうのか。
- ・見たものが間違っていたという例を述べることができるのは、その後、誤りに気付くからである。私たちは見たものを勘違いしても、後で必ず間違いだったと気付くということは期待できるだろうか。
- ・五感から知ることの意味は何だろうか。
- ・科学においては、知覚による誤認は Knowledge Claim にどのように影響を与えるか。
- ・知覚による誤認は、歴史の中で作られる Knowledge Claim にどのように影響を与えるか。

(3) 「知覚的な錯覚」について書かれた文章※1を読み、思考は、次に挙げる(a)～(e)の影響をどのように受けてイメージを作り上げるのかということについてまとめる。

- | |
|--|
| a)背景 b)図と地(Figure and Ground)
c)視覚的分類 d)期待 e)無意識の役割 |
|--|

<評価>

形成的評価

2段落構成で文章をまとめる。

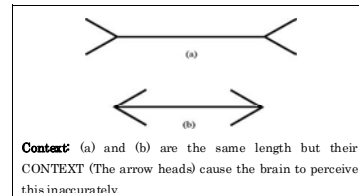
1段落は歴史的知識獲得において、もう1段落は科学的知識獲得において陥りやすいことについて述べる。

※1 教材① 87～91ページ
「Perceptual illusions」参照

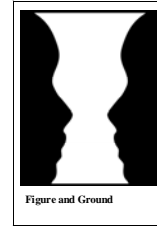
(参考)

- a)背景：背景によって見えるものが変わることがある。
- b)図と地：我々がものを見る時、見ているものを意識的に手前にあるものと奥にあるものとして選び分け、見ている部分を目立たせ、それ以外の部分は背景として意識している。
- c)視覚的分類：我々の脳は、目にしたものについて意味を求め、形や模様に関分類する傾向がある。
- d)期待：我々は、実際に知覚したものと違っていても、予期していたものとして認識する。
- e)無意識の役割：我々の脳は、我々が知覚したものに対して無意識レベルで絶えず調整を行っている。

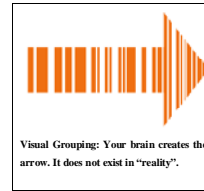
a)



b)



c)



- d)トランプでスペードの赤の6というカードがあると、多くの人はダイヤの赤の6、又はスペードの黒の6として認識する。
- e)廊下の端から人が歩いてくるとき、目に映る像は次第に大きくなるが、その人がゆっくりと大きくなっているとは認識しない。

第3時限目
知覚の選択性

(1) 生徒に、知覚の選択性について実証するため、何かに気付かないということがいかに身近に起こっているかを体感させる50秒のビデオを見せる。

(参考) ビデオの概要

バスケットボールの試合中に、コートの中をクマの格好をした男性が踊りながら通過していく。生徒たちは、ビデオを見る前に、試合をしているチームが何回パスをするか数えるように指示される。生徒の多くは、数えることに集中してしまうため、クマの格好した男性を見逃してしまう。

(2) 2人1組になり、日常生活あるいは学校生活で気付いたことをどのように選択しているのかについて述べ合う。

・ディスカッション例

- なぜ気付いたことについて選択するのか。
- 知覚したことを選ぶということにどんな利点や不利益があるのか。

(3) 知覚の選択性について述べられている文章※2を読み、4つの主なポイントを記憶し、述

<指導上の留意点>

自分たちがいかに知覚を選択的に使用しているかということを生徒たちに強く印象付ける。

<評価>

形成的評価

新聞記事の分析を書く。例えば、事故の記事において、知覚の選択性がどのように記事を書くことに影響を与えたかについて述べる。

	<p>べる。</p> <p>(参考)「知覚の選択性」の概要</p> <p>我々の意識の中には、絶えずたくさんの情報が流れ込み、全てを認識するとオーバーフローしてしまうので、我々は選択的にものを見ている。我々が普段どのような刺激を意識するかは、その強さやコントラストといった客観的な要素が大きな要素となっており、ともに、それぞれの興味関心といった主観的な要素にも依存する。感情も、知覚に影響を与えている。</p>	<p>「Selectivity of perception」参照</p>
<p>第4時限目</p> <p>知覚と記憶の危うさ</p>	<p>(1) いくつかの物が載せられたトレイを見て、2分間ですべての物を覚える。その後トレイを覆い、生徒はそこに載っていた全ての物を思い出すという活動を行う。</p> <p>(2) 2人1組になって、どうやったら見た物を正確に思い出せるのかについて話し合う。その際、なぜよく覚えている物とそうでない物があるのかということを中心に話をする。</p> <p>(3) 「Noticing People Photos」(資料2-7参照)と「Noticing People Worksheet」(資料2-8)を使った活動を行う。</p> <p>まず、2人1組になって写真を見る。次に写真を見ないでワークシートに載っていた全ての人物の名前を言い、それらの人物についての特徴を述べる。なぜ自分の感覚の中で重要だと選択された物があるのに対し、気付かなかった物があるのかについて議論する。</p> <p>「Noticing People Worksheet」を完成させる。</p> <p>(4) 「目撃証言」についての文章※3を読み、3文で要約する。</p> <p>(参考)「目撃証言」の概要</p> <p>例えば、目撃証言によって有罪とされた人が無罪になることがあるように、知覚による誤認は、理論的な関心のみならず、現実の世界において重要な影響をもたらしている。我々が何かを記憶する際はいつも、目にしたものを再構築して記憶している。例えば、子どもの頃を振り返ると、自分の記憶が本当に正しいかどうかは確かでないように、記憶の源をあいまいにすることは簡単なことである。</p>	<p><指導上の留意点></p> <p>自分たちの記憶があいまいなものであるということについて生徒の理解を求める。</p> <p>※3 教材① 94 ページ「Eye-witness testimony」参照</p>
<p>第5時限目</p> <p>思考が知覚にもたらす影響</p>	<p>(1) 2人1組で“My eyes were deceiving me.”という言葉を聞いたことがあるか、我々の目や他の知覚は私たちを騙すことがあるのだろうかということについて議論する。</p>	

(2) 生徒に視覚的錯覚を引き起こす絵をいくつか見せる。生徒は、インターネットを活用していくつかの例にアクセスし、実際に視覚的錯覚を体験する。

(3) 2人1組になって、錯覚を引き起こす絵を見て視覚について議論する。

(4) 現実を見分けるときに重要とされている3つの要素について書かれた文章※4を読み、ペアで話し合った後、別のペアを組み、自分自身の言葉で、3つの要素の意味を相手に説明する。また、見せかけを現実と区別する際に、これらがどのように役に立つかを話し合う。

<3つの要素>

①別の知覚による確認

②一貫性（筋が通っているかということ）

③他人の証言

(参考)

「①別の知覚による確認」の例

- ・誰かが自分の名前を呼んでいると思ったが、確かではないので、周囲を見回して誰かが見ていないか確かめてみる。
- ・冷蔵庫に入っている牛乳が、見た目では大丈夫だが、確かではないので、臭いを嗅いでみる。

「②一貫性」の例

- ・友達がカンニングをしているように見えた時、あなたが知っている友達の誠実さに照らして、その事実関係を確認する。

「③他人の証言」の例

- ・自分の目を疑うようなもの（例えば幽霊やUFOなど）を見たとき、友達に見たかどうか確認する。

例)



<指導上の留意点>

知覚が我々の思考を騙しているのではなくて、我々の思考が我々の知覚に影響を与えているということについて生徒の理解を求める。

※4 教材①95、96ページ
「Distinguishing appearance from reality」参照

第6時限目
現実の本質

(1) 「究極の現実」と「認知心理学」について書かれた文章※5を読み、それぞれ1文でまとめ、2人1組で話し合う。

(参考) 「究極の現実」の概要

究極の現実に関する知識を我々に与えてくれる知覚という問題は、哲学的かつ抽象的で、認知心理学について考えさせるものである。

(参考) 「認知心理学」の概要

我々は五感によって貴重な情報を得ているが、どの知覚にも限界があり、一定の範囲内での情報だけをつかむことができる。もし我々の目が、異なる波長の光を感じとることが

※5 教材①96、97ページ「Ultimate reality」「Psychology of perception」参照

できれば、世界の見え方は今とまったく違ったものになるだろう。このようなことに気付くことが、我々の知覚器官が現実を解釈しているということを見破り、真の現実とは何かを我々に考えさせることにつながる。

- (2) 2人1組で、「そこに真に存在しているものは何か」ということについて書かれた文章※6を読み、現実の本質に関して出てきた疑問について話し合い、クラスで発表する。

(参考) 「そこに真に存在しているものは何か」の概要

現実の本質に関するトピックをいくつか紹介している。

例) 教室の机

授業が終わって教室を出た後、誰も見ていない中で、机がそこに存在していることをどのようにして知ることができるか。ビデオカメラを設置して撮影すれば、机がそこに存在している映像を撮ることができるが、それは本質的な解決にはならず、実際に見ていないのに、そのビデオの映像により、机が実際に存在していることをどのように証明できるかという問題が生じることになる。しかし、このような問題を気にするには、我々の人生は短すぎ、我々が見ていない間も机は机であり、このようなことを逐一考える必要はないという結論に達するだろう。

- (3) 知覚と現実の関係に関する異なる3つの理論(①common-sense realism、②scientific realism、③phenomenalism)に関する文章※7を読み、自分自身の言葉でまとめ、提出する。

<指導上の留意点>

真の実現とは何かということについて生徒の理解を求める。

※6教材①97～99ページ「What is really out there」参照

<評価>

形成的評価

知覚と現実の関係に関する異なる3つの理論(教材①参照)について自分の言葉でまとめる。

※7教材①99～101ページ「Theories of reality」参照

第7時限目

科学に関する知覚

- (1) 次に挙げる科学的概念の中から1つを選び、調査する。

- ①ドップラー効果
- ②コペルニクス革命(地動説)
- ③メンデルの遺伝

- (2) 生徒は次の質問について考える。

- ①知覚は、これらの科学的概念を研究する中で、発見、探究、知識獲得の際にどのように役に立つか。
- ②これらの科学的概念を研究する中で、発見、探究、知識獲得の際の知覚の限界として、どのようなことが挙げられるか。

<指導上の留意点>

科学的概念を研究する際、知覚の利点と限界があることについて生徒の理解を求める。

(参考)

○ドップラー効果

例えば救急車が通り過ぎる際にサイレンの音が変わるのは、ドップラー効果によるものである。ドップラー効果は、観測者と相対した波の周波数に関連した物理学で説明ができる。言うまでもなく、救急車のサイレンの音の変化を耳にしたときのように、はじめは知覚を通して気付く。知覚を通してこの現象に気付かなければ、ドップラーの研究は根拠を持たなかつたろう。 しかしながら、知覚ではこの波を認識することはできない。 音は聞こえるが、人間の目や耳では気付かない波動のさまざまな働き（つまりドップラー効果）がある。

○コペルニクス革命（地動説）

地球は宇宙の中心ではないという説は、星や惑星の観察が基になっていた。ゆえに、この科学的大発見において、知覚は重要な役割を果たした。しかしながら、星や惑星を観測する我々の能力は今なお非常に限られたものであり、高性能の望遠鏡が発明された後でさえ、観測は困難である。

○メンデルの遺伝

グレゴール・メンデルは、遺伝の研究の根拠としてエンドウマメを観察した。しかしながら、その当時、高性能の顕微鏡で観察できていなかったなら、より高度な理解を得ようとする彼の努力を妨げていたであろう。

(3) これらの概念のうちの1つを調査し、その出来事について知識を獲得する上での知覚の利点と限界に関して明らかになったことを分析した後、ペアになり、お互いに発表し合う。その後、別のペアと自分たちが気付いたことを発表し合う。流暢に自信を持って発表できるように、この活動を繰り返し行う。

第8時限目

歴史に関する知覚

(1) 生徒は歴史上の出来事（歴史の授業で勉強している出来事が望ましい）を1つ選ぶ。ペアになり、知覚が関係する部分を分析する。
①知覚はこれらの歴史上の出来事を研究する中で、発見、探究、知識獲得の際にどのように役に立つか。
②これらの歴史上の出来事を研究する中で、発見、探究、知識獲得の際の知覚の限界として、どのようなことが挙げられるだろうか。
(トピック例)

<指導上の留意点>

歴史上の出来事を学ぶ際、知覚の利点と限界があることについて生徒の理解を求める。

- ・ブリテンの戦い
- ・タイタニック号の沈没
- ・エリザベス二世の即位

(2) これらのトピックのうちの1つを調査し、その出来事について知識を獲得する上での知覚の利点と限界について分析した後、ペアになり、お互いに発表し合う。その後、別のペアと自分たちが気付いたことを発表し合う。流暢に自信を持って発表できるように、この活動を繰り返し行う。

7 評価基準(付けたい力)

(1) 総括的評価

生徒は、次の質問に対する答えを1,000ワードでまとめる。

世の中に関する知識を獲得する上で、知覚の重要性は何か。また、知覚の限界は何か。

※加藤学園暁秀高等学校においては、TOKのエッセイに対する修正評価規準(資料2-1参照)を用いて評価する。

(2) 形成的評価

各授業において(あるいは宿題として)、生徒のクリティカル・シンキングを育むために、以下のようなエッセイを書いたり、話し合いをしたりする活動を評価する。

- 2段落構成で文章をまとめる。1段落は歴史、もう1段落は科学に関して、知識を得る上で知覚がいかに重要であるかについて述べる。
- 2段落構成で文章をまとめる。1段落は歴史的知識獲得において、もう1段落は科学的知識獲得において陥りやすいことについて述べる。
- 新聞記事の分析を書く。例えば、事故の記事において、知覚の選択性がどのように記事を書くことに影響を与えたかについて述べる。
- 知覚と現実の関係に関する異なる3つの理論について自分の言葉でまとめる。

8 その他(特徴的な活動方法例)

- ・この授業の主たる活動形式としては、ペアワーク(もしくは少人数のグループワーク)が望ましい。
- ・この単元では、①自分自身で考える姿勢を身に付ける、②要約、分析、発表といったスキルを学び、実践する、ということを目的としている。

TOK指導案 「知識の領域」に関する事例

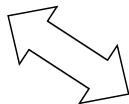
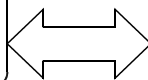
1 単元名 「知識の領域」としての芸術

2 学年 高校2年

3 各概念の統合

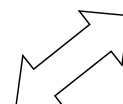
「TOK」のどのような部分を学習するのか
芸術をどのようにして知ることができるのか。

生徒の理解が期待される概念
「知識の領域」としての芸術の本質や芸術がもたらす知識に関する問いが Knowledge Issue を引き起こす。



学習活動における重視すべき視点

- ・ 芸術とは何か。芸術の目的は何か。
- ・ 芸術における意味の役割は何か。
- ・ 芸術はどのような知識をもたらすのか、また、芸術がもたらす知識によってどのような Knowledge Issue が引き起こされるのか。
- ・ 芸術家には、どのような道義的責任があるのだろうか。
- ・ 芸術はどのように評価されるのか。



4 単元の目標

生徒には次のことが期待される：

- 芸術における意味の重要性を述べる。
- 芸術の目的に関する Knowledge Claim を述べ、これらの主張を批判的に分析する。
- 芸術がもたらすさまざまな種類の知識を述べる。
- 芸術の質に関する Knowledge Claim を述べ、これらの主張を批判的に評価する。
- 芸術と倫理を取り囲む Knowledge Issue を述べ、これらの論点を批判的に分析する。

5 使用する教材等

- ① Richard van de Lagemaat(2005)「 Theory of Knowledge for the IB Diploma 」(Cambridge University Press)
- ② John L. Tomkinson (2004)「 The Enterprise of Knowledge 」(Athens Anagnosis)

6 単元の指導過程

	学習活動	指導上の留意点及び評価
<p>第1時限目 芸術とは何か</p>	<p>(1) 2人1組になり、次のことを話し合う。 ア) 読んだことのある本 イ) 好きな歌 ウ) 考えさせられた映画やテレビ番組 エ) 知っている視覚映像 その後、各ペアは、「芸術とは何か。」を定義し、クラスで発表する。</p> <p>(2) 2人1組になり、次に挙げるものが芸術かどうか、また、なぜ違いがあるのかについて話し合った後、クラスで発表する。 ア) 山 イ) 山で撮影した家族写真 ウ) 夕日に映える山の写真 エ) 山の絵</p> <p>(3) リーディング：芸術の単元の「導入」及び「芸術とは何か」について書かれた文章※1を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。 (参考)「導入」「芸術とは何か」の概要 ・芸術の領域では、知識と芸術の関係に関する次の4つの点について考える。 ①芸術とは何か。 ②芸術的判断は、主観的なものか、客観的なものか。 ③芸術は知識に対してどう役に立つのか。 ④芸術と科学の似ている点と異なる点はどのような点か。 ・芸術とがらくたを区別するものは何かについて、次の3つの視点から考える。 ①芸術家の意図 ②作品の質 ③鑑賞者の反応</p>	<p><指導上の留意点> 芸術について、考えられる定義は多様であることについて生徒の理解を求める。</p> <p>※1 教材① 329～331 ページ 「Introduction」「What is Art?」参照</p>
<p>第2時限目 芸術の目的は何か</p>	<p>(1) 2人1組になり、芸術の目的は何かについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 再び2人1組に分かれる。次の文章のうち1つをそれぞれのペアに提示し、これらの文章を裏付ける根拠を出し合う。 ア) 芸術の役割は、表現することである。 イ) 芸術の役割は、人々を驚かせることである。 ウ) 芸術の役割は、人々に教えることである。 エ) 芸術の役割は、技能で人々を感動させる</p>	<p><指導上の留意点> 芸術にはさまざまな目的が考えられることについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価> 形成的評価 生徒は、考えられる芸術の目的を1つ挙げ、その目的について賛成する理由と反対する理由を1つずつ記</p>

	<p>ことである。</p> <p>オ) 芸術の役割は、人々に異なる方法で世界を示すことである。</p> <p>(3) 各ペアは、割り当てられた文章を裏付ける根拠をお互いに出し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(4) リーディング：「模倣としての芸術」「コミュニケーションとしての芸術」「教育としての芸術」という芸術に関する3つの理論について書かれた文章※2を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)</p> <p>「模倣としての芸術」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術の理論の中で最もよく知られているのが模倣の理論であり、芸術の目的は現実を模写することだとされている。 <p>「コミュニケーションとしての芸術」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術においては芸術家が鑑賞者に何らかのメッセージを伝えようとしている。 <p>「教育としての芸術」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術は我々の行動に影響を与える感情を引き起こすものであり、芸術には、道徳上・また教育上の役割がある。 	<p>述する。</p> <p>※2教材①344～348ページ「Art as imitation」「Art as communication」「Art as education」参照</p>
<p>第3時限目</p> <p>芸術における知識</p>	<p>(1) 2人1組になり、自分が何かを学んだ映画・歌・小説は何か、また、その映画・歌・小説からどのような知識を得たのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 2人1組になり、芸術はどのようにして事実をもたらすことができるのか、または往々にして起こることなのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>例) 源氏物語を読めば、平安時代の事実を学ぶことができる。葛飾北斎の絵を見れば、1800年代の日本の田舎の風景がわかる。</p> <p>(3) 2人1組になり、1曲の歌からその歌手について何が分かるのか、また、1枚の絵画からその芸術家について何が分かるのか、芸術作品をより理解するためには、制作者について知ることは重要なのだろうかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(4) 2人1組になり、今までに芸術から歴史について学んだことがあるか、芸術から人間の本質について学んだことはあるかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(5) リーディング：知識の媒体としての芸術に</p>	<p><指導上の留意点></p> <p>芸術は様々な種類の知識をもたらすことについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価></p> <p>形成的評価</p> <p>生徒は、自分たちが芸術から何を学ぶことができるかについて文章を書く。</p>

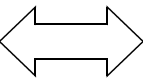
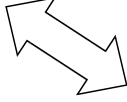
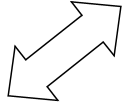
	<p>ついて書かれた文章※3を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。(参考)「知識の媒体としての芸術」の概要</p> <p>芸術が私達に伝える知識の形態として、現実の本質や感情、イデオロギー、道徳性といったものがある。</p>	<p>※3教材②212～215ページ「Art as a vehicle for knowledge」参照</p>
<p>第4時限目 芸術を知ること</p>	<p>(1) 2人1組になり、小説をより深く理解するためには、それを書いた小説家について知る必要があるのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 2人1組になり、芸術作品を正しく理解するためには、その文化的、歴史的、社会的背景を知ることが重要なのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>例) ハーパー・リー著『アラバマ物語(原題: <i>To Kill a Mockingbird</i>)』を十分に理解する上で、1930年代当時のアメリカ南部をどのくらい知る必要があるのだろうか。</p> <p>(3) リーディング: 「芸術家の意図」「作品の質」「鑑賞者の反応」について書かれた文章※4を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)</p> <p>「芸術家の意図」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 観客から美的感覚に基づく反応を喚起する意図を持って作られた物は芸術作品であるという考え方があるが、もともとそのような意図がなくても、芸術作品とされるものもあれば、そのような意図があってもがらくたとして扱われるものもあり、このような芸術家の意図は必ずしも必要なものではない。 <p>「作品の質」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ある作品が芸術作品であるかそうでないかを分ける決め手は、その作品に備わっている質であり、それは作者の「技量」にも密接に関わっているという考え方もあるが、質と作者の技量は、芸術作品であるために必ずしも必要なものではない。 <p>「鑑賞者の反応」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ある芸術が芸術作品かそうでないかを分ける基準は、鑑賞者の反応であり、冗談には笑ってくれる人が必要なように、芸術作品にもその良さを分かってくれる鑑賞者が必要なのである。 	<p><指導上の留意点></p> <p>最近学習した文学作品と結び付けて具体的に考えることにより、芸術を理解するためには様々な方法があることについて生徒に理解を求める。</p> <p>※4教材①331～337ページ「Intentions of the Artist」「Quality of the Work」「Response of the Spectators」参照</p>

<p>第5時限目 良い芸術、 悪い芸術</p>	<p>(1) 2人1組になり、質が低いと思うテレビ番組・本・歌は何か、また、逆に、質が良いと思うテレビ番組・本・歌は何かについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 2人1組になり、何が芸術を良くするのか、あるいは、悪くするのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(3) リーディング：「芸術を評価する」という文章※5を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)「芸術を評価する」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い芸術と悪い芸術を区別する際の私たちの判断はどの程度客観的なのか、また、育ってきた文化や個人的な好みによってどれぐらい影響を受けるのか、という疑問について、美的感覚による判断は客観的か、芸術には万人に共通する判断基準があるのかといった観点から考えていく。 	<p><指導上の留意点> 良い芸術と悪い芸術があるという考えから Knowledge Issue が浮かび上がるよう生徒を導く。</p> <p><評価> 形成的評価 生徒は、次の問いについて500ワードの作文をする。 「特定の芸術作品を良い、あるいは、悪いと言うことはできるかということについて、その理由とともにあなたの見解を説明しなさい。また、どのような反対意見があるか述べなさい。」</p> <p>※5教材①338～344ページ 「Judging Art」参照</p>
<p>第6時限目 芸術における倫理的 問題</p>	<p>(1) 2人1組で、「芸術は、検閲されるべきである。」というトピックについて即興のディベートを行う。それぞれが賛否どちらかの側に立ち討論する。</p> <p>(2) 2人1組になり、特定の映画・絵画・詩・歌で見いだしたことのある道徳的・倫理的メッセージについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(3) 2人1組になり、芸術家には、道徳的・倫理的責任があるかについて話し合った後、クラスで発表する。</p>	<p><指導上の留意点> 芸術に関する倫理的・道徳的問題から生じる Knowledge Issue について生徒の理解を求める。</p>
<p>第7時限目 芸術と「知るための方法」</p>	<p>(1) 2人1組になり、感情は、芸術においてどのような役割を担うのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 2人1組になり、言葉は、芸術においてどのような役割を担うのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(3) 2人1組になり、知覚は、芸術においてどのような役割を担うのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(4) 2人1組になり、根拠は、芸術においてどのような役割を担うのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p>	<p><指導上の留意点> 4つの「知るための方法」は、芸術においてそれぞれ役割を担っていることについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価> 形成的評価 生徒は、下記の2つのトピックについて作文をする。 「芸術の知識においてもっとも顕著に見られる『知るための方法』はどれか。また反対に、もっとも目立たないと思われる『知るための方法』はどれか。」 文章の中では、自分の主張が正しい理由も示さなければならない。</p>

<p>第8時限目 芸術と他の「知識の領域」</p>	<p>(1) 2人1組になり、芸術は、「知識の領域」の1つとして、他の領域（歴史、ヒューマンサイエンス、自然科学、数学、倫理）とどのように異なるのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 2人1組になり、芸術は、「知識の領域」の1つとして、他の領域（歴史、ヒューマンサイエンス、自然科学、数学、倫理）とどのように重複するのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p>	<p><指導上の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術は他の「知識の領域」と比較対照することができるのか。 ・芸術は他の全ての「知識の領域」と結びついているように捉えることができる。
--------------------------------------	--	--

<p>7 評価規準(付けたい力)</p>
<p>(1) 総括的評価</p>
<p>この単元に対する総括的評価として、生徒に、芸術はどのような知識をもたらすのか、また、芸術によってどのような Knowledge Issue が生じるのかについて答えるエッセイを書かせたり、口頭発表を課したりする。</p> <p>※加藤学園暁秀高等学校においては、TOK のエッセイに対する修正評価規準（資料2－1 参照）を用いて評価する。</p>
<p>(2) 形成的評価</p>
<p>生徒は、各授業（あるいは宿題）において、以下のことをノートにまとめ、教員はその内容をチェックして形成的評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒は、考えられる芸術の目的を1つ挙げ、その目的について賛成する理由と反対する理由を1つずつ記述する。 ○生徒は、自分たちが芸術から何を学ぶことができるかについて文章を書く。 ○生徒は、次の問いについて500ワードの作文をする。 <ul style="list-style-type: none"> 「特定の芸術作品を良い、あるいは、悪いと言うことはできるのかについて、あなたの見解を理由とともに説明しなさい。また、どのような反対意見があるか述べなさい。」 ○生徒は、下記の2つのトピックについて作文をする。 <ul style="list-style-type: none"> 「芸術の知識においてもっとも顕著に見られる『知るための方法』はどれか。また反対に、もっとも目立たないと思われる『知るための方法』はどれか。」 <p>文章の中では、自分の主張が正しい理由も示さなければならない。</p>

TOK指導案 「知識の領域」に関する事例

1 単元名 「知識の領域」としての歴史
2 学年 高校2年
3 各概念の統合
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"><p>「TOK」のどのような部分を学習するのか 歴史における知識はどのようにして 獲得されるのか。</p></div><div style="text-align: center; margin: 0 10px;"></div><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"><p>生徒の理解が期待される概念 「知識の領域」としての歴史の本質と それがもたらす知識を批判的に検討する 必要がある。</p></div></div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%; margin: 0 auto;"><p>学習活動における重視すべき視点</p><ul style="list-style-type: none">・歴史とは何か。なぜ歴史を学ぶのか。・過去の出来事について、どの程度確信を持って語ることができるのか。・歴史は知識という点においてどのような限界があるか。</div></div>
4 単元の目標(内容と技能)
生徒には次のことが期待される： <ul style="list-style-type: none">● 歴史について考えられる定義を議論する。● 先入観や、選択的であるという性質、歴史は勝者によって綴られるなど、歴史的説明の限界点を述べる。● 「知識の領域」としての科学と歴史の強みと限界を比較する。
5 使用する教材等
① Richard van de Lagemaat(2005)「Theory of Knowledge for the IB Diploma」(Cambridge University Press) ② History Knowledge Issues list (資料2 - 9 参照)

6 単元の指導過程

	学習活動及び指導上の留意点	評価
第1時限目 歴史とは何か	(1) 3つの歴史的事実を選び、2人1組で話し合った後、歴史に対する自分たちなりの定義をまとめ、クラスで発表する。 例) 歴史は過去に起こった出来事の研究である。 (2) 2人1組になり、歴史は、他の「知識の領域」にさまざまな知識をもたらすかについて話し合う。 (3) リーディング:「導入」「歴史とは何か」について書かれた文章※1を2人1組で読む。各ペアは質問やコメントをまとめ、発表する。 (参考)「導入」「歴史とは何か」の概要 ・歴史とは何かという疑問に対する答えは、簡単に言えば、過去について研究することということになるが、実際には、その出来事を証明する証拠やその出来事の重要性、その出来事に対する説明や理解などもっと複雑な要素が絡んでいる。	<指導上の留意点> 歴史に対する定義は多様であることについて生徒の理解を求める。 <評価> 形成的評価 次の2点について文章を書く。 (1) 歴史をどう考えるか。 (2) 歴史は、他の「知識の領域」と違って、特にどのような知識をもたらすのか。 ※1 教材① 301～304ページ 「Introduction」「What is History」参照
第2時限目 なぜ歴史を学ぶのか	(1) 2人1組になり、歴史を学ぶことは有効的な時間の使い方なのかどうかについて即興のディベートを行う。2人のうち1人は肯定側、もう1人は否定側として討論する。 (2) 2人1組になり、ある歴史的出来事から何が学べるかについて考え、クラスで発表する。 (3) リーディング:「なぜ歴史を勉強するのか」について書かれた文章※2を2人1組で読む。各ペアは質問やコメントをまとめ、発表する。 (参考)「なぜ歴史を勉強するのか」 ①アイデンティティの意識(自己認識)を与えてくれる ②プロパガンダに対する防御である ③人間の本质に対する理解を豊かにする	<指導上の留意点> なぜ歴史を学ぶのかということについて生徒の理解を求める。 ※2 教材① 304～307ページ 「Why study history?」参照
第3時限目 歴史家はどのように研究しているのか	(1) 2人1組になり、実際に起こっている歴史的出来事と教室でその事柄を学んでいる生徒との間にはどのような過程が存在するのかについて話し合う。生徒は、その過程を書き留め、クラスで発表する。 (2) 2人1組になり、上記の過程のどの段階において、「情報」「真実」「知識」が失われるおそれがあるのかについて話し合った後、クラスで発表する。 (参考) 歴史を学習するときは、起こったことに関す	<指導上の留意点> 歴史の構築過程は、必ずしも何が起こったかを、完全かつ正確に後世に伝えるものであるとは言えないことについて生徒の理解を求める。

る知識を得たいと思うものであり、生徒が描く過程は次のようなものになるだろう。

①出来事が起こる。その出来事に関する知識を伝える目撃者がいる。しかしながら、その知識はここで失われてしまうかもしれない。理由は以下のとおり。

- ・その目撃者が重要な点を見逃したり、間違っ
て記憶したりしているかもしれない。さらに、
起きたことを列挙する際に、故意に、あるい
は無意識に一部を見落とすことがあるかもし
れない。
- ・全ての目撃者が生き残って、その出来事につ
いて何らかの報告をするというわけではない。

②歴史家は目撃者からの報告を照合したり解釈したりする。しかしながら、知識はここで失われてしまうかもしれない。理由は以下のとおり。

- ・歴史家は起こったことの詳細を省いたり、誤
って解釈したりするかもしれない。多くの報
告が残存していないかもしれない。
- ・歴史家は、自分の解釈に焦点を合わせ、編集
しなければならない。

③教員（あるいは教育機関）は、教える教材を選ぶ。しかしながら、知識はここで失われてしまうかもしれない。理由は以下のとおり。

- ・ある教科書が選ばれ、その一部分だけが教え
られるため、重要な出来事やある出来事の重
要な側面が省かれる可能性がある。
- ・生徒の予備知識の欠落などの問題点のために、
歴史家によって研究された出来事について十
分な知識を得られない。

(3)リーディング：2人1組になり、「過去はどのようにして知ることができるか」について書かれた文章※₃を読む。各ペアは質問やコメントをまとめ、発表する。

(参考)「過去はどのようにして知ることができるか」の概要

- ・歴史を学ぶ際の問題は、既に存在しない過去を知ろうとするところにある。過去は変えられないもので、それゆえ客観的なものであり、「過去」と「過去に対する我々の知識」は区別して考えられるべきである。
- ・歴史においては客観性が重要であり、歴史家はどの程度まで客観的な事実に近づくこ

※₃教材①307～308ページ

「How can the past be known?」参照

とができるのが問題となるが、そのためには、歴史的な証拠の本質を見抜くことが求められる。

第4時限目

知識源としての歴史の限界：歴史は選択的である

- (1) 前年度に行われた学校行事（体育祭や文化祭等）を1つ選ぶ。生徒はそれぞれ思い出を記述する。その後、お互いの思い出を比べ、個々人が大切なこととして選択している情報がいかに多様かを確認する。
- (2) 例えば、「関ヶ原の戦い」や「ペリー来航」などの歴史的出来事の説明を読み、この説明にはどのような情報が選択され、どのような情報が省かれたのか、またそれはなぜかについて、2人1組で話し合った後、クラスで発表する。
- (3) リーディング：「歴史は選ばれたものの中から選ばれたものである」ということについて書かれた文章※4を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。
- (参考)「歴史は選ばれたものの中から選ばれたものである」の概要
- ・歴史を綴るとき、歴史家は存在する証拠の中から選択をしなければならない。一次資料（実際にその出来事が起こったときにそれを目撃した人々による記録）はそれ自体が出来事を選択して解釈したものであり、その意味で歴史は、選ばれたものの中から選ばれたものであると言える（過去に関する知識は、まずそれを実際に見た人の目を通され、続いて歴史を綴る歴史家の目を通されている）。

<指導上の留意点>

歴史家は、歴史的出来事を説明する際、何を記録するかについて選択的であることを強調する。

<評価>

形成的評価

生徒は、選択の必要性によって、歴史におけるどのような Knowledge Issue が提起されるのかについて文章を書く。

※4教材①311ページ「History is a selection of a selection」参照

第5時限目

知識源としての歴史の限界：後知恵

- (1) 2人1組になり、過去を振り返って自らの良い判断と悪い判断について話し合う。また、このような「後知恵」（過去の出来事に対する後の判断）は、どのようにして過去の出来事を当時の判断と異なるように見せるのかについて話し合った後、クラスで発表する。
- (2) 2人1組になり、歴史についての知識を得る上で、後知恵はどのようにメリットやデメリットとなるのかについて話し合った後、クラスで発表する。
- (3) 学校で使用している歴史の教科書から歴史的な事実を抜き出し、それらに「後知恵」が使われていることを確認し、クラスで発表する。
- (4) リーディング：『後知恵』の利点と問題点について書かれた文章※5を2人1組で読む。

<指導上の留意点>

「後知恵」は、歴史を学ぶ上で利点にも問題点にもなることについて生徒の理解を求める。

<評価>

形成的評価

生徒は、後知恵が、歴史においてどのように Knowledge Issue を生じさせているのかについて文章を書く。

※5教材①311～313ページ「The advantages of hindsight」

	<p>各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)『後知恵』の利点と問題点の概要</p> <p><「後知恵」の利点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・起きた当時は重要だと思われなかった出来事も時が経つと非常に重要な出来事だったとわかること、また、その逆もある。 ・歴史を様々な時代に分けているのは後になってからである。 <p><「後知恵」の問題点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「後知恵」は過去に対する理解をゆがめることがある。過去を振り返るとき、その出来事は避けられなかったものであると考えがちである。(例：第2次世界大戦でヒトラーは負ける運命だった) 	<p>disadvantages of hindsight」参照</p>
<p>第6時限目</p> <p>知識源としての歴史の限界：勝者によって綴られる歴史</p>	<p>(1) 2人1組になり、「帝国主義」「植民地主義」「先住」の定義を話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(2) 2人1組で、征服された民族や植民地化された人々(アステカ族、アボリジニ、マオリ族など)を挙げる。このような人々の歴史はどのようにして知り得るのか、またここから、どのような Knowledge Issue が浮かび上がってくるのかについて話し合う。</p> <p>(3) リーディング：「故意に歴史を改ざんすること」について書かれた文章※6を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)「故意に歴史を改ざんすること」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府や圧力団体等によって歴史の事実がわざと改ざんされることで、問題が生じる。(例：ナチスが戦争に勝利していたら、何が歴史書に綴られ、「真実」となっていたか。) ・一次資料が当てにできるものかどうかを見分ける方法として、次の2つが考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ①「誰が書いたものか」「それを書く動機は何だったのか」「出来事が起こって、どれぐらい後にそれは書かれたのか」を検証する。 ②様々な一次資料を比較し、それぞれがどの程度一致しているかを確認する。 	<p><指導上の留意点></p> <p>歴史上における闘争の勝者が歴史を残しているため、実際に起きたことの本当の詳細は伝えられていないかもしれないということについて生徒の理解を求める。</p> <p><評価></p> <p>形成的評価</p> <p>生徒は、歴史は勝者によって綴られているという事実が、歴史においてどのように Knowledge Issue を提起するのかについて文章を書く。</p> <p>※6 教材① 309～310 ページ 「Deliberate manipulation」参照</p>
<p>第7時限目</p> <p>知識源としての歴史の限界：先入</p>	<p>(1) 2人1組になり、先入観とはなにか、どのような偏見があるか(国的、地域的、性的、政治的、階級的など)について話し合った後、クラスで発表する。</p>	<p><指導上の留意点></p> <p>先入観が歴史の正確性に影響を与えている可能性があることについて生徒の理解を求める。</p>

<p>観</p>	<p>(2) 2人1組になり、「学習者」としての自分の経験が、どのような先入観をもたらしているのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(3) 2人1組になり、歴史家は先入観を持っているのか、そうであるならば、そのことによってどのような Knowledge Issue が浮かび上がるのかについて話し合った後、クラスで発表する。</p> <p>(4) リーディング：「先入観の問題」について書かれた文章※7を2人1組で読む。各ペアは、質問やコメントをまとめ、発表する。</p> <p>(参考)「先入観の問題」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史は自然科学よりも先入観が関わる傾向にあり、少なくとも以下の3つの理由が考えられる。 ①話題性のあるトピックが偏重されること ②歴史家の見解と一致する証拠は受け入れられやすいが、否定するような証拠は受け入れられにくいこと ③文化的・政治的背景から生じる偏見や先入観により、出来事の捉え方が違ってくこと 	<p><評価> 形成的評価</p> <p>生徒は、先入観が、歴史においてどのように Knowledge Issue を提起するのかについて文章を書く。</p> <p>※7 教材① 313～315 ページ 「The problem of bias」参照</p>
<p>第8時限目 まとめ</p>	<p>(1) 生徒には、「History Knowledge Issues」(資料2-9参照)のリストから Knowledge Issue がそれぞれ1つずつ提示される。5分間で、特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それが何を意味しているのか ・それに関する反対意見 <p>について、自分の考えをまとめる。</p> <p>その後、2人1組になり、自分の考えをお互いに発表する。その後、違うペアになり、新しいパートナーに自分の考えを伝える。この活動を何回か繰り返す。</p> <p>(2) クラスを3～4人のグループに分ける。各グループは、「History Knowledge Issues」のリストから特定の Knowledge Issue を割り当てられる。この Knowledge Issue を示すような短いロールプレイを準備する。</p> <p>(3) 割り当てられた Knowledge Issue に関するロールプレイをクラスに発表する。</p> <p>(ロールプレイの具体例)</p> <p>ロールプレイは、Knowledge Issue を例証したり復習したりするのにとても効果的な方法である。例えば、生徒が3人1組になり、「歴史は勝</p>	<p><指導上の留意点></p> <p>歴史から派生する様々な「Knowledge Issue」を再検討する。</p>

者によって綴られている」という Knowledge Issue を選んだ場合、以下のような例が考えられる。

(生徒1)「ああ、私は母国にいて、平和に暮らしているなあ。」

生徒2が進み出る。

(生徒2)「私はこの土地に自分の金鉱が欲しい。」

(逃げる生徒1を生徒2が殴る(ふりをする。))

生徒3が進み出る。

(生徒3)「私は歴史家だ。ここで何が起こったかを知りたい。」

(生徒2)「私がここを穏やかに歩いていたら、あの男が(生徒1を指さしながら)私を脅した。残念なことに私は自分の身を守るために彼を追い払わなければならなかった。そして今や私が自分の金鉱を求めてこの土地を使うのは理にかなっていると思うのだが。」

(生徒3)「分かりました。私の歴史の本にそのことを書いておきましょう。」

生徒たちは、自分たちでこのようなロールプレイを作り、演じる。

7 評価規準(付けたい力)

(1)総括的評価

生徒は、この単元に対する総括的評価として、「知識の領域としての歴史」と「知識の領域としての科学」の強みと問題点を比較する1,000ワード程度のエッセイを書く。

※加藤学園暁秀高等学校においては、TOKのエッセイに対する修正評価規準(資料2-1参照)を用いて評価する。

(2)形成的評価

各授業において(あるいは宿題として)、生徒のクリティカル・シンキングを育むために、以下のようなエッセイを書いたり、話し合いをしたりする活動を評価する。

○次の2点について文章を書く。

(1)歴史をどう考えるか。

(2)歴史は、他の「知識の領域」と違って、特にどのような知識をもたらすのか。

○生徒は、選択の必要性によって、歴史におけるどのような Knowledge Issue が提起されるのかについて文章を書く。

○生徒は、後知恵が、歴史においてどのように Knowledge Issue を生じさせているのかについて文章を書く。

○生徒は、歴史は勝者によって綴られているという事実が、歴史においてどのように Knowledge Issue を提起するのかについて文章を書く。

○生徒は、先入観が、歴史においてどのように Knowledge Issue を提起するのかについて文章を書く。